

高齢者施設職員等への定期的な検査の意義について

1. 新型コロナウイルス感染症の特徴

「新型コロナウイルス感染症診療の手引き」第4.2版によれば、新型コロナウイルス感染症について、

- 有症者が感染伝播の主体であるが、発症前の潜伏期にある感染者を含む**無症状病原体保有者からの感染リスクもある**
- **感染可能期間は発症2日前から**発症後7～10日間程度と考えられている
- **高齢者かつ基礎疾患のある患者で特に死亡リスクが高いこと、および年齢が高くなるほど致死率は高くなる**ことが分かっている

といった所見が示されている。

2. 新型コロナウイルス感染症の感染の実態

- 感染者のうち20～40歳代の**若い世代の者は、約5割**を占めている。
- 感染者のうち**無症状の者は、約3割**を占めている。

3. 高齢者施設職員等への定期的な検査の意義

- 上記のとおり、新型コロナウイルス感染症は、**発症前の無症状の状態でも感染力**がある。また、実際、**若い世代、無症状の感染者も多い**。
- 一方、**高齢者施設等の入所者は重症化リスクが高い特性**があり、高齢者施設等で**集団感染が生じた場合に入所者や施設経営への影響が大きく、また医療提供体制への負荷の増大**につながる。

また、高齢者施設、特に長期入所型施設における**クラスターは感染した職員から生じる傾向が多い**。

(2月2日内閣官房新型コロナウイルス感染症対策分科会「緊急事態宣言下での対策の徹底・強化についての提言」)

- これまでに**集中的検査を実施した都道府県等から、新型コロナウイルスへの感染を早期に発見でき、集団感染の防止等迅速な対応に繋がった**といった評価がある。